
研究主題 知識・技能の活用を図る学習活動に関する 指導展開例の作成

小学校4教科(国・社・算・理)
中学校6教科(国・社・数・理・英・家)

【総括研究担当者】 佐藤 亥 壱 齊藤 義 宏
【英語科研究担当者】 遠山 秀 樹 上 柿 剛

1 はじめに

学習指導要領改訂後、「活用」というキーワードが取り上げられていますが、活用を意識した授業とはどのようなものなのでしょうか。

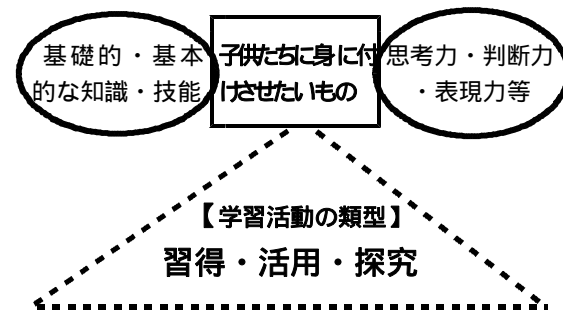
本項では、活用を図る学習活動の考え方や指導方法等を追いながら、現在当センターが作成している指導展開例について紹介します。

2 「活用」をこう捉える！

(1) 「活用」は学習活動の類型の一つ

今回の学習指導要領の改訂では、思考力等を育成するための手立てとして、「習得・活用・探究」という学習活動と学習の流れが規定されました。この規定では、児童生徒に身に付けさせたいものは「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」であることを前提とした上で、「活用」はあくまでも知識及び技能を活用する(考えながら使う)という学習活動の類型の一つとして示されています。表現を変えれば、活用は目的ではなく、課題解決する過程において、思考力等の力を身に付けさせるための方法・手段になります。

習得・活用・探究についての考え方(イメージ図)



(2) 「活用」は指導方法を見直すチャンス

課題を解決するために知識・技能を活用する場合には、ある単一の知識や技能だけを用いても課題を解決するには至りません。児童生徒が、観察・実験やレポートの作成、論述といった学習活動に取り組む際に、自らが既に持ち合わせている知識・技能を使える状態にするとともに、周りの人や書物といった資源に近づき実際に利用する必要があります。このような学習活動の質が、学習成果に影響を与えられます。

「活用」という学習活動について、「今までもやってきている」という先生もいれば、まったく新しい課題と受け止めている先生もいると思います。いずれにしても、授業とはいったいなんなのかということを確認する機会であることは間違いありません。私たち教師にとって自分たちの指導方法を見直すチャンスと捉えていきましょう。

(3) 探究活動をヒントに指導方法を改善する

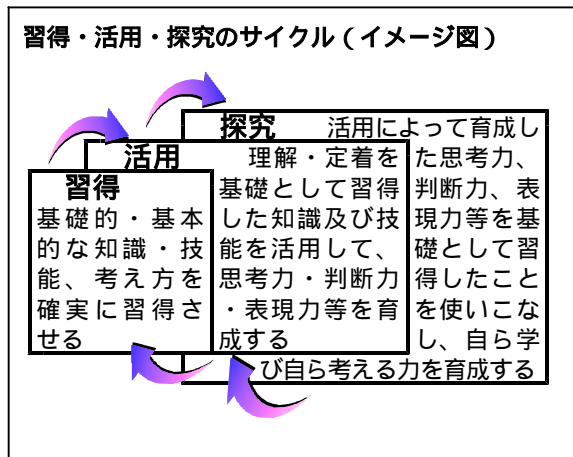
では、具体的に指導方法をどのように見直して、改善を図ればよいのか。ここでは、教科指導の最終目標である「探究的に学び続けようとする指導」という側面から考えてみます。探究活動については、学習指導要領解説総合的な学習の時間編でプロセスが示されているように、課題を見付けることに始まり、その問題の解決のためにどのような情報が必要なのか、それはどうやれば収集できるのかについても考えたり、判断しなければならなくなります。さらに、

考えをどのようにまとめ、表現すればよいのかについても考え、他者との情報交換を効果的に行うことも必要になります。このプロセスに指導方法の改善へのヒントがあります。前述したように、思考力等を育成するための手立てとして、「習得・活用・探究」という学習活動と学習の流れが規定されたことを考えれば、当然、探究活動のプロセスが活用を図る学習活動にも適用され、接続されていくことが望ましいと考えられます。但し、前記したプロセスの全てを備えることを想定する必要はありません。単元を見渡し、「なんのために、どの時間のどこで、なにを使って、どのように知識・技能の活用を図る学習活動をするのか」「その結果、児童生徒はどのようになればよいのか」ということを見直しの視点としたうえで、探究活動のプロセスの個々の学習活動を効果的に位置付けていくことが改善につながります。

(4) **授業構想の留意点は・・・**

「習得・活用・探究」は学習活動の類型を示したものであり、一体のものとして捉えることが大切です。三者の時間的、量的、内容的な枠を決めることが大事なのではなく、バランスよく取り組むことが優先されなければなりません。このことは、単元構想の必要性の根拠となります。児童生徒の学習は、教育課程に基づく指導計画に沿って一時間一時間の授業によって進展していきます。各時間や各単元の指導内容は系統や発展のある計画の基に位置付けられていますから、各時間の指導は、常に新しいものを学ぶのではなく、何らかの意味でこれまでに学習したことの続きや発展として学ぶこととなります。つまり、習得した知識・技能をつなげ活用していくこととなります。このことを児童生徒に意識させ、活用のねらい、対象、方法、及び活用することによって生み出される良さなどを強調し、児童生徒が今後、知識・技能を意欲的に活用していこうとする態度を育てていくことが大切です。その意味からも振り返りの場の設定と意義を大事にしたいものです。また、習得・活用・探究を一方通行の過程として捉えたり

段階的に捉えたりするのではなく、活用することで確かな習得がなされたり、探究的な活動の中で習得と活用が繰り返されたり等、様々なプロセスがあることを確認する必要があります。例えば、活用することにより「前にやった勉強はそういうことだったのか」という、習得すべき知識がより深く理解されるということもあります。このようなサイクルを指導計画に意図的にのせていきます。



(5) **言語活動を踏まえる**

実際の授業の指導にあたっては、知識・技能の活用を図る学習活動は、言語によって行われるものであることから、全教科にわたって、充実が図られた言語活動を踏まえて取り組むことが重要です。特に、言語活動としての「記録、要約、説明、論述の能力」が問われており、中核となる学習活動としては、「説明する」ことが重要となります。「説明する」ことができるということは、対象となる学習内容を理解し、それについて考え、その考えを基に表現できるということです。ここに、論述する能力が育成されるものと考えられ、今回の学習指導要領の改訂で充実すべき重要項目の第一に、「言語活動の充実」が挙げられている根拠と捉えることができます。詳しくは、「中央教育審議会（答申）（平成20年1月27日、pp.53～54）を参考として下さい。学習指導要領で求められている「言語活動の充実」にかかわる内容が掲載されています。

(4) 単位時間の指導展開例

単位時間の指導展開例

単元指導計画の中で、何時間目に当たるかを示しています。

本時の指導の中で、言語活動にかかわる概要を示しています。統合的な言語活動を行うことができるように構想しました。

導入場面においても言語活動を行っている場合があると思いますが、ここでは本時のメインとなる言語活動にかかわった学習内容を示しています。

本時で扱う言語活動は、指導事項の中でもどれに当てはまるか4領域別に示しました。特に重視する領域は網掛けになっています。

本時の概要

1	2	3	4	5	6	7	8	9
---	---	---	---	---	---	---	---	---

言語活動の指導事項

聞くこと	
話すこと	
読むこと	
書くこと	

指導展開例

段階	学習内容	
導入	1 あいさつ	日常的に指導しているルーティーン
	2 ノテストや解答集	
	3 前時の復習 【音読や練習】	
	【学習課題】	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
	活用場面	4 5 6 7
総括	10 自己評価	
	11 課題の進捗と次の予告	

活用場面の具体的な流れ

4-

5-

6-

7-

言語活動の充実させるために

メインとなる言語活動にかかわって、それを充実させるための配慮事項を示しています。

(5) 単位時間の授業にかかわるワークシート（資料）

2年生実習ワークシート

You Can Do It!

Unit 5 The Story of Silent Night - Starting Out p.59
学習課題-Is(Are) there-?の文構造が分かり、使えるようになる。

◇ モールの見取り図を完成させよう。どんなお店がどこにあるのでしょうか？

TOWA MALL 見取り図

	Florist	?	
出入	噴水コーナー		?
	?	Bookstore	

(2) 階見取り図

	?	Sushi Restaurant	
エレベーター 出入	吹き抜け		?
	Shoe Store		?

◇ モールの中には、どんなお店が入っているかな？

■ Barber Shop	■ Vegetable Shop
■ Bakery	■ Cellphone Shop
■ Chinese Restaurant	■ Italian Restaurant
■ Ice cream Shop	■ UNIQLO

◇ 確認

4 おわりに

新学習指導要領の改訂後、「活用を図る学習活動」という言葉をよく耳にするようになりましたが、これは何ら新しい考え方ではなく、現行の学習指導要領においても重視されてきたものです。英語科の場合、「言語活動の充実」がそれに当たるわけですが、言語活動というと、「コミュニケーション活動」というとらえになりがちですが、4領域それぞれの指導事項を3学年間の中で意識して指導にあたりたいものです。

指導展開例は当センターのWebページに掲載しますので、ご活用下さい。

上記の指導展開において、言語活動を行う際に使用するワークシートです。作成する上で、「辞書使用」、「文法はまとめて整理させる」、「授業と宿題の連動」等についても考えてみました。